

フィットネスクラブにおける従業員の職業性ストレスに  
関する日中比較研究

順天堂大学大学院  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4119048  
氏名：李 芳西

**【目的】**

本研究では、フィットネスクラブ従業員の健康増進に資する基礎情報を得るために、日本と中国における職業性ストレスの比較検討を行うことを目的とした。

**【方法】**

日本のフィットネスクラブ従業員 437 名及び中国のフィットネスクラブ従業員 490 名を対象に質問紙調査を実施した。質問紙は厚生労働省の職業性ストレス簡易調査票（57 項目）の日本語版と中国語版を用いた。本研究においては、SPSS Version26（IBM Corporation）を用いて分析を行った。

**【結果】**

日本よりも中国のフィットネスクラブ従業員の方が職業性ストレスをより強く感じていることが示された。t 検定の結果、国籍で「ストレス反応」と「修飾要因」について、日本よりも中国が有意に高い得点を示していた。「仕事のストレス要因」は日中の得点に有意な差は認められなかった。仕事のストレス要因 17 項目のうち、8 因子において有意な差が認められた。「コントロール」因子に関しては有意差が認められなかった。相関分析の結果を見ると、日本における、仕事のストレス要因の 9 尺度得点とストレス反応合計得点の関係は、「身体的負担」において相関が認められなかった。

**【結論】**

本研究における国際比較の結果は、日中のフィットネスクラブ従業員のストレスマネジメントを展開する上で有益な基礎情報となり得る。日本と中国のフィットネス企業はともに従業員の職業性ストレスの改善に取り組む必要がある。このような研究の蓄積により、エビデンスに基づく職業性ストレスへの介入を実現できると考える。